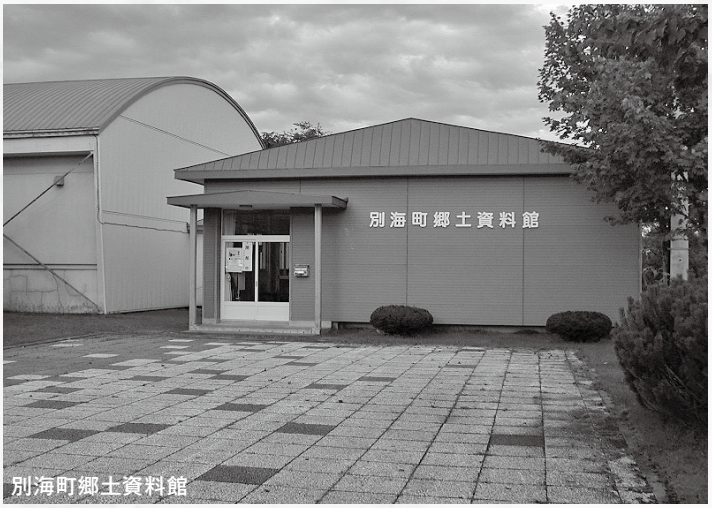
3つの施設の特長を生かした運営
別 海 町 郷 土 資 料 館

別海町郷土資料館　副館長　石渡　一人



別海町郷土資料館

HPはこちら

別海町郷土資料館は、1993（平成５）年４月に、町民の実生活の向上と教育・文化の振興に資することを目的に開館しました。その後、2000（平成12）年７月に附属施設加賀家文書館、2016（平成28）年４月に豊原分館が開館しました。現在、この３つの施設の特長を生かした館の運営を行っています。

別海町郷土資料館は、町の歴史や自然をテーマとし、先史から開拓時代の様子、基幹産業である酪農業や漁業を紹介する施設です。実物資料や解説パネルのほか職員手作りの各種ジオラマでの効果的な展示が大きな特長です。また、来館者の目を引く資料としては、国内で15個しか発見されていない「マンモスゾウ臼歯化石」の内、別海町の野付半島外海で発見された４個が、実物で展示されています。さらに、豊かな自然を象徴する野生動物の剥製の中では、直立状態で２m40cmの大きさにもなるヒグマが大人気で、その迫力に来館者は驚いています。

大人気のヒグマの剥製

附属施設加賀家文書館は、江戸時代の後期に根室地方の場所請負人（商人）の下で働いた加賀家が残した「加賀家文書」を展示公開・収蔵・保存する施設です。資料は、場所請負人の場所支配に関するもの、地図、絵図、アイヌ語関係など多種多様です。「加賀家文書」のほとんどを書き残したのは、三代目の加賀伝蔵（かがでんぞう）で、アイヌ語通辞（通訳）として長年働き、アイヌとともに畑づくりを行うなど、多くの業績を残しました。幕末の探検家で北海道の名付け親でもある松浦武四郎（まつうらたけしろう）と交流があり、送られた手紙には、アイヌ保護のお願いや鮭の筋子を送って欲しいなどの記述があります。展示の見どころは、古文書資料や当時使用していた実物資料、アイヌ民族資料です。そのほか、アイヌ語通辞加賀伝蔵物語のアニメーション視聴を通して、幕末のこの地方の様子を知ることができます。

附属施設加賀家文書館（展示風景）

豊原分館では、別海町郷土資料館の所蔵資料を収蔵展示し公開するほか、豊原地区で1955（昭和30）年から酪農近代化の先駆けとして実施された根釧パイロットファーム事業の関係資料を見ることができます。根釧パイロットファームの関係資料は、地元の方々により収集、制作されたもので、農機具や生活用品、当時の写真を大型パネルにしたものは、当時の様子を私たちに語りかけてくれる貴重な資料となっています。町の基幹産業である酪農業の歴史を学ぶことができます。

これら３つの施設の特長を活かし、様々な教育普及事業を実施しております。町の歴史や自然を学ぶ、ふるさと講座をはじめ、特別展、加賀家文書歴史講座、

豊原分館　根釧パイロットファームの展示風景

出前講座、出前移動展、地域回想法事業*による高齢者施設への資料貸出、郷土資料館だよりの発行などです。団体来館の対応については、見るだけではなく実際に道具（資料）を使う体験活動も行えるなどの工夫をし、子どもから大人まで楽しめる内容となっています。

ふるさと講座「戦争遺産を巡る」

別海町郷土資料館、豊原分館は、学校の旧校舎を転用したものであり、老朽化が著しく多くの課題がありますが、町の歴史と自然を伝える施設として地域住民に愛されるよう館の運営に取り組んで行きたいと考えています。

利用案内（別海町郷土資料館・加賀家文書館共通）
- 開館時間　9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日　毎月第２・４月曜日、毎月第１・３・５土曜日・日曜日、国民の祝日、年末年始（12月29日～１月６日）
- 観覧料　一般350円、団体（10名以上）280円
  高校生以下は無料

利用案内（豊原分館）
- 開館時間　10:00～16:00
- 開館日　５月～10月の金曜日、毎月最終日曜日
- 観覧料　無料

＊　地域回想法
高齢者が昔懐かしい生活用具などを通じて、自身が体験したことを語り合うことで、認知症の予防や生きがいづくり、世代を超えた交流につながる。